

結婚式場業におけるこの1年の傾向

2003年11月27日

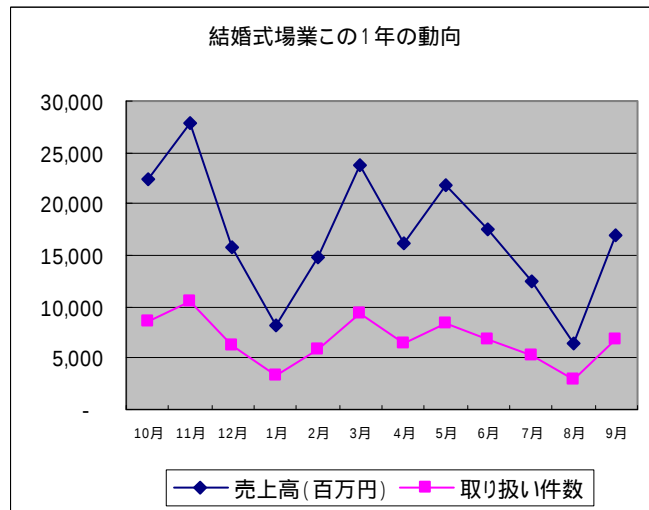
岐阜経済大学

井戸 伸彦

■ 結婚式場業、この1年

右図グラフに、この1年の結婚式場業の売上、および取り扱い件数の推移を示す。グラフより解るとおり、結婚式場の利用に関しては、次の傾向が見受けられる。

- ・繁忙期の11月は、閑散期の1月・8月に比べて3倍の売上があり、結婚式場業は、季節業種と言える。
 - ・件数に比して売上の上下幅は大きい。
- 以上より、結婚式業界では、閑散期の集客が今後の大きな課題となると考えられる。



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高(百万円)	22,307	27,921	15,826	8,220	14,841	23,751	16,115	21,777	17,488	12,388	6,488	16,966
取り扱い件数	8,554	10,514	6,263	3,322	5,838	9,315	6,359	8,442	6,867	5,262	2,886	6,864
1件当たりの売上	2.61	2.66	2.53	2.47	2.54	2.55	2.53	2.58	2.55	2.35	2.25	2.47

(「経済産業省 : 特定サービス産業動態統計調査」より)

■ 1件あたりの売上に関して

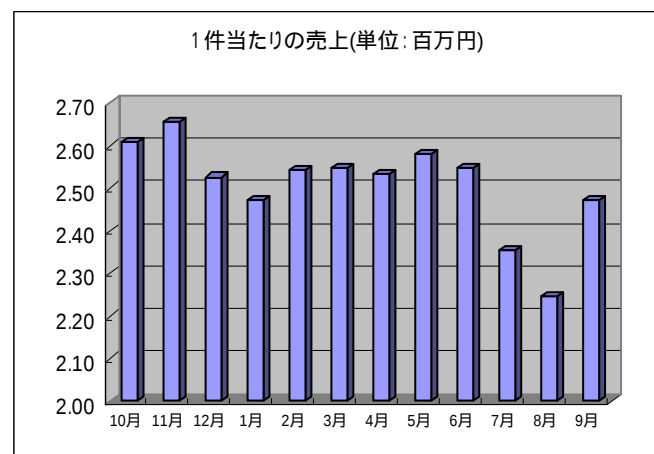
右図グラフに、結婚式場業1件あたりの売上の推移を示す。グラフより解るとおり、閑散期には1件あたりの売上も下がるが、1月に比して8月の落ち込みは激しい。この原因について、仮説を立てて見た。

[仮説1] 夏は軽装が多く、式も自然と簡略なものとなりやすい。

[仮説2] 夏は食欲が減退し、式での食事でも自然と簡単なものになりやすい。

[仮説3] 貧乏人は夏が好きだ。

報告者は、[仮説3]を強く推す。報告者もまた夏が好きであり、ささやかながら傍証となるものと考ええる。



—以上—